

電子私書箱の概念と機能 利用者視点への転換

◆電子私書箱(仮称)構想の目標

様々なサービス提供者(国、地方自治体、保険者、医療機関等)が保有する国民の情報を、安心かつ容易に入手・閲覧し、本人が入手・閲覧・管理・活用できる仕組みを実現。



利用者の視点に立ち返り、これらのサービスについて新たな情報の入手・活用スキームを提示。

電子私書箱の主要な機能

●情報の入手・閲覧

- 様々なサービス提供者で分散している個人の情報を、本人の意向に基づき集約し、自分の情報を入手・閲覧できる仕組み。
- 前頁①、③の問題を解決。

●情報の管理・活用

- 収集・蓄積した個人の情報を他のサービスに活用する仕組み。
- 前頁②、④の課題を解決。

